

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300521
法人名	株式会社 ライフサポートNEO
事業所名	原古賀紀水苑
所在地	佐賀県鳥栖市原古賀町854番地 (電話) 0942-84-6427

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年6月17日

【情報提供票より】(平成21年 3月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	3人, 非常勤 9人, 常勤換算 8.15人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート瓦葺平屋建て
------	--------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(3月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低	81 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀医院 古賀素子歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要な幹線道路から少し入った静かな住宅地の中にあり、落ち着いた感じの木造の施設である。母体法人はグループホームや宅老所など4施設を運営していて、同種の組織に加盟している。加盟組織の会合にも出席することなどにより、入ってくる情報量も多く、サービスの質の向上に活かしている。スタッフの年齢層は幅が広く、入居者にとっては子どもや孫との同居のようで、施設内は明るい雰囲気につつまれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は、外部評価、自己評価の意義は理解している。前回の評価結果を全職員で話し合い、改善点を探し、具体的な実施案を検討し、実践へつなげるよう努力している。行政の担当者を運営推進会議への参加にもつなげることが出来た。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価に対する重要性は管理者も職員もよく理解している。自己評価は管理者が作成し、それを全職員で検討したものをまとめている。全職員がそれぞれ自己評価したものを持ち寄り、検討し、全職員で作上げる自己評価など、今後の職員の評価に対する意識向上への努力にも期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開かれ、外部評価の結果なども話し合われている。参加者はまだ家族中心であるが、働きかけの結果、行政からの参加にも取り組んでいる。地域の区長、民生委員などへも働きかけているので、今後の運営推進会議の充実が期待できる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議への出席家族による話し合いが、家族会への発展となり、自分の考えを紙に書いて持ってくるなど、積極的な意見交換につながっている。出入口には意見箱を置き、気づいたことは入れてもらっている。来苑者には声を掛けてコミュニケーションをとっている。意見の中で、すぐに実行できるものはすぐ取り組み、他のものは調整会議にはかり、運営に活かしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの小学校の祭りや、地区の文化祭など、地域の行事には積極的に参加している。溝掃除など朝が早い行事には職員が対応し、地域との連携に努力している。散歩のときの挨拶から始まって、野菜を届けてもらうなど、地域への浸透も徐々に広がっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、地域に根ざした施設を目標に、利用者中心の考えで作られている。母体法人の理念と、事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の目に付きやすいところに掲げてある。毎日のミーティングで理念を唱和し、日頃の実践が理念に基づいたものになるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の一員として暮らしていけるように、地元との交流に積極的に取り組んでいる。地域の文化祭に参加したり、溝掃除などの行事にも参加して、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員と話し合い、理解している。前回の評価での改善点を話し合い、改善に向けた取り組みを続け、成果が現れ始めたものもある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者は利用者の家族が中心であり、2ヶ月に1回開かれている。前回の評価結果も公表し、意見を交わし、問題点は調整会議で取り上げている。行政や、地域の住民にも参加を働きかけている。	○	利用者、家族、地域住民、包括支援センターや行政など、幅広い立場の参加を得た運営推進会議の開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地元の連絡協議会へ参加し、情報交換に努めている。市の包括支援センターにも定期的に訪問し、事業所の実情を話したり、サービスの取り組みについて指導を仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「苑だより」を作り、現状を報告している。それに添えて、暮らしぶりや行事のスナップ写真を数枚送っている。金銭は出納帳で管理し、領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口については重要事項説明書に記載し説明している。玄関の入口に「意見箱」を置いて、いつでも入れられるようになっている。行事で家族が来られたら、行事終了後に家族会を開き意見交換をし、問題点は調整会議で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人の人事異動で管理者の異動はあるが、地域密着型事業所であることを踏まえ、スタッフの人事異動はない。離職によるスタッフの入れ替わりは有ったが、職員の定着にも努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、サービスの質がスタッフの質による事を理解している。母体法人の4施設での研修会や勉強会に毎月参加し、加盟グループの勉強会にも積極的に参加している。施設が必要と認めた研修には施設が派遣し、職員の希望による研修にも参加を認めるなど育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホームとの行き来を密にし、意見交換や情報交換に努めている。また、地域の連絡協議会にも参加し、ネットワーク作りやサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家庭へ職員が出向き、本人と家族による面談を2、3回繰り返し、施設に来てもらっての話し合いを持ち、体験入居まで導いて、不安の解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りが得意な人には畑の手入れや草取りを教えてもらい、料理の得意な人には準備や後片付けなどをしてもらったり、一緒に作業しながら共に支え合う関係作りに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で、声掛けにより思いや意向を知ることには努めている。何気ない会話の中から真意を汲み取り、その場で記録できるよう、近くに記録用紙が用意されている。また、家族から本人の生活歴を聞き、参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネジャーが立案し、担当者で協議している。それを全スタッフで検討したものを家族に見せ、意見を交わして修正するという一連の流れができています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行い、変化が生じた場合はその都度計画の見直しを行っている。その場合は、家族や関係者の意見を聞きながら、本人にとって最良と思われる計画作りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院は家族が対応するのが原則ではあるが、家族の状況や要望により、柔軟な対応をしている。施設のすぐ近くにある協力医療機関への同伴はもとより、緊急時の対応は家族と連絡を取りながら行っている。入院に至った場合は定期的に見舞いに行き、状況把握に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関への受診を支援している。受診や通院は基本的には家族同伴ではあるが、家族の事情によっては職員が対応している。近所に24時間体制で応援してくれる協力医療機関があり、いつでも受診できる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針とマニュアルがある。家族へは入居の時に説明し、意思を確認し文書を取り交わしている。状況が変わった場合は、家族、医療機関を交えて意思の再確認や方針について再度検討することになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は入居者のプライバシーを守ることの必要性を理解している。日頃の声掛けが入居者の誇りを傷つけることの無いようミーティングなどで徹底を図っている。個人情報の記録などは人目につかない場所に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れを作り目安にはしているが、一人ひとりのペースで、本人の自由な行動が出来るようになっている。職員がよく声を掛けて、本人が何をしたいのか意思を汲み取るようにして、希望に沿った支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が、一緒に食事の準備をし、一緒に食事を取り、一緒に後片付けをしている。食事の間中笑い声が絶えず、職員と入居者の日頃の声掛けや係わり合いがうまくいっている事が窺える。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、ほとんど毎日入っている入居者も多い。体調が悪いときでも、清拭等に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	箒がけ、野菜畑の草取り、台所での調理や後片付けなど、自分がやれることを見つけて楽しみごととしている。入居者の一人ひとりの残存機能を考えての生活支援を心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	桜見物、紅葉狩りなど、季節に合ったドライブや、日常の買い物や散歩など、出来るだけ外に出る機会を多く持つように心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者も職員も鍵を掛ける事による弊害を理解しており、居室には鍵を掛けることは無い。夜間以外は玄関も鍵を掛けることは無く、センサーの利用も無い。見守り中心のケアに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながらの避難訓練を、年に2回、行なっている。また、運営推進会議を通じて災害時における近隣の方々への協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者と一緒に考えている。出来るだけなじみのもの、本人の好みに合うもので、栄養のバランスを考えながら工夫している。食事内容は記録に残し、食事摂取量、水分摂取量を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす居間には、季節感のあるものが飾られ、思い思いのくつろぎが出来るよう、ソファや椅子が配置されている。南側にはウッドデッキ風のバルコニーがあり、日向ぼっこも出来るようになっている。トイレは広めのつくりになっており、使いやすい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2種類で、畳の部屋とフローリングの部屋とがあり、布団とベッドが残存機能により使い分けられている。なじみのものが持ち込まれており、利用者にとって居心地のいい部屋になるように配慮されている。		